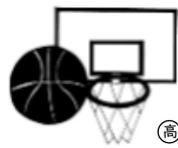


令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業



陸上競技



バスケットボール

青森県教育委員会
令和4年2月16日(水)



サッカー



フライングディスク

【青森県特別支援教育推進ビジョン（H31.2）】

「障害のある児童生徒が、地域社会において、生涯を通じて教育やスポーツ、文化活動等に親しむことができるようにするため、地域人材を活用し、地域における活動を充実させるとともに、特別支援学校間のスポーツ・文化活動による交流を行い、生涯学習の基盤づくりに努める。」

【本県の県立特別支援学校の現状】

授業に障害者スポーツを積極的に取り入れるなどスポーツの機会を積極的に設けている

学校外に出ると…

時間軸・空間軸ともにスポーツをする機会が限られている

生活年齢が上がるにつれて…

積極的にスポーツに取り組む者とそうでない者に二極化する傾向

卒業後…スポーツに積極的に取り組む者はごく一部である

地域のスポーツ活動への参加及び
生涯学習の基盤づくりが必要



障害者にとってのスポーツとは…

心身の健康や体力の向上だけではなく…



- ・生活能力の向上
- ・個々の自己決定力、問題解決能力を身に付ける、引き出す



自立と社会参加



本事業は、障害者の継続的なスポーツの実施促進に向けて、本県における課題に対応して、(1) 障害者スポーツの振興体制の強化、
(2) 身近な場所でスポーツを実施できる環境の整備等を図るとともに、
(3) より広く障害者が参加できるスポーツ大会を開催することを
目的とする。（令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業実施要項）

令和3年度 特別支援学校における障害者スポーツ推進事業（青森県教委）

(1)

青森県特別支援学校スポーツ推進委員会

県立特別支援学校に在籍している児童生徒がそれぞれの形でスポーツに親しむために学校でできることや各特別支援学校が所在する地域のスポーツ施設等を含む関係機関との連携の在り方について検討する。また、青森県特別支援学校スポーツ連盟総合スポーツ大会に係る指導・助言を行う。

構成：学識経験者、スポーツ振興団体、関係部局、特別支援学校関係者等

指導・助言

特別支援学校に在籍する児童生徒の

指導・助言

(2)

各県立特別支援学校の取組

県内の人材、地域のスポーツ施設等を活用したスポーツ体験活動を実施する。

- ・地域の人財、スポーツ施設を活用したスポーツ体験
- ・他校種、地域とのスポーツ交流（オンライン交流を含む）
- ・障害者スポーツ体験等

連携

総合型地域スポーツクラブ

卒業後の スポーツ活動の充実

スポーツを通じた 生涯学習の 基盤づくり

指導・成果
の発表

(3)

青森県特別支援学校スポーツ連盟 第1回総合スポーツ大会

県内16校の特別支援学校が参加するスポーツ大会を開催する。

日時 令和3年9月28日(火)

場所 新青森県総合運動公園
各県立特別支援学校

種目 ボッチャ、フライングディスク、陸上
バスケットボール、バレーボール、サッカー

運営ボランティア

高等学校生徒・大学生等



〈 期待・想定した効果 〉

【スポーツに関する効果】

- ◆ 卒業後も継続してスポーツに取り組むきっかけとなるのではないかな。
- ◆ 競技に関心をもち、観戦・応援等のそれぞれのスタイルでのスポーツに関する取組が充実するのではないかな。
- ◆ スポーツの経験が拡大したり、生活の中にスポーツを取り入れようとする態度や意欲が向上したりするのではないかな。
- ◆ 楽しみながらスポーツに取り組む習慣が形成されるのではないかな。

【スポーツ以外の効果】

- ◆ 地域との良好な関係づくり（地域の活性化）につながるのではないかな。
- ◆ 人と関わる力が向上するのではないかな。
- ◆ 共生社会の実現につながるのではないかな。
- ◆ 自己有用感や自己肯定感が高まり、自信につながるのではないかな。

【教員への効果】

- ◆ 障害者が身体を動かすことに関する教員の専門性の向上が図られるのではないかな。



【特別支援学校スポーツ推進委員会】

推進委員会委員

大学准教授・県障害者スポーツ協会・県障害者スポーツ指導員会・県スポーツ協会
県高等学校体育連盟・**県特別支援学級通級指導教室設置校長協議会**
関係部署（県健康福祉部障害福祉課・生涯学習課・**スポーツ健康課**）
県特別支援学校校長会・特別支援学校**5障害種**学校長・附属特別支援学校長

総合型地域
スポーツクラブ担当者

推進委員会

第1回推進委員会：令和3年6月25日（金）

- 県特別支援学校第1回総合スポーツ大会について
- 特別支援学校における生涯スポーツの推進に向けて

第2回推進委員会：令和3年12月17日（金）

- 県特別支援学校第1回総合スポーツ大会 結果報告
- 特別支援学校における生涯スポーツの推進に向けて

これまでの3年間の取組で、特別支援学校の児童生徒は、スポーツに関わることで、スポーツ技術の向上だけではなく、スポーツを通じて「コミュニケーションの向上」や「自信がついた」など成長が見られ、充実してきた。今後は、**学校の活動をどのように地域での活動につなげていくのか**である。

総合型地域スポーツクラブとの連携・協力



【各特別支援学校における取組】

✓ 卒業生が中心となって活動しているクラブとの連携

・フロアバレーボール（視）

- 試合という明確な目標ができ、これまで以上に練習に熱が入り、勝敗に対する意欲が高まるなど、練習に目的意識を持って取り組むようになった。
- 生涯を通じてスポーツを楽しむことができることに気付いた。

✓ 地域のスポーツ資源の活用

・少林寺拳法（聾） ・卓球（聾、知） ・エアロビクス（知）

・サッカー（知） ・バレーボール（知） ・健康トレーニング（病）

- 上達するために自主的に練習するようになった。
- 身体を動かすことで味わった爽快感により、自ら身体を動かそうとする態度や意欲につながり、身体を動かすことへの抵抗感が軽減し、今後も続けたいという意見が聞かれた。
- プロのプレイを間近で見たことで、競技に対する興味や関心が広がった。

✓ 障害者スポーツ競技

・ボッチャ（知、肢） ・フライングディスク（知・肢）

- ルールの理解が深まり、技術的な向上が見られた。
- 成功を喜び合ったり、友達を応援したりするなど、友達の良さを認め合えるようになってきた。
- スポーツ大会で勝ったことが自信になり、もっと試合をしたいという感想が聞かれた。



「光の方へ」

県立弘前第一養護学校高等部生徒作品
(第1回総合スポーツ大会ポスター原画)

【特別支援学校第1回総合スポーツ大会】

✓ 当日オンライン参加生徒数 約120名
チャレンジ競技参加生徒数 約890名

※期間を決めて記録を測定し、記録に応じて級を認定する競技



〈オンライン競技〉

- ・ボッチャ
- ・フライングディスク
- ・バレーボール(新ルール)

〈チャレンジ競技〉

- ・ボッチャ
- ・フライングディスク
- ・バレーボール
- ・バスケットボール
- ・サッカー
- ・陸上競技



バレーボール



・オンラインで実施。6人対6人
・画面の相手がサーブを打ち、相手コートに入れればそのボールをコートに投げ入れ、レシーブ・トス・スパイクをする。



フライングディスク



ボッチャ

【成果：児童生徒の変容】

【技術の向上への思い】

- ・スポーツ大会に参加したい
- ・もっとうまくなりたい
- ・サッカー選手になりたい

【コミュニケーション力の向上】

- ・作戦を話し合う
- ・成功を喜び合う
- ・友達を応援する
- ・友達の良さを認め合う
- ・児童生徒間で教え合う

【生活の変化】

学んだことを
生活に取り入れる

プレイする

- ・放課後、休み時間、寄宿舎で友達と一緒にスポーツ
- ・休日に家族とスポーツ観戦
- ・動画サイトを見ながら家でもダンス
- ・スポーツ大会に参加がしたい

ささえる

【スポーツへの意識・ 意欲の変化】

それぞれにあった形での
体を動かす楽しみ

- ・大勢で運動することの楽しさ
- ・重度の障害でも…
体を揺らす、手を動かす...etc

観る
応援する

【自信】

「できた」という感覚
「うまかった」という感覚...etc

- ・気持ちを伝えることが苦手な児童生徒が…「もっとやりたい」「もっと見たい」など、間近で触れたスポーツに対する自分の思いを言葉にしていた。

【今後に向けて…学校としてできること…】

○学校におけるスポーツ活動の継続

- ・スポーツに親しむ、身体を楽しく動かす機会を積極的に確保する。
- ・インターネット等を活用して、他の学校の児童生徒や関係機関の方と競い合うなど、校内外を問わず交流する機会をつくる。
- ・プレイするだけでなく、応援や観戦など児童生徒の実態に応じたスポーツとの関わり方を見つける。

○地域のスポーツ活動の充実

スポーツを介した地域との関わり合いを通して、学校での活動を地域に広げることによって地域の理解が広がり、新たなスポーツ環境の整備につながることを期待できる。

卒業後の健康的で充実した生活に向けた
児童生徒それぞれの生涯学習の基盤づくり